



大学院教育における フィールドワーク教育の実践

—筑波大学人文地理学・地誌学教室の事例—



松井圭介・兼子 純(筑波大)・
大石貴之(筑波大・院)

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~chicho/hrg/>





報告の目的

- ◆ 地理学におけるフィールドワークの重要性は論を待たないが、大学院のカリキュラムにおいてフィールドワークを正規の科目として設置している大学は少ない。
- ◆ 本発表では、前身校時代よりフィールドワークを大学院の正課教育として取り入れ、地域調査を学風としてきた筑波大学人文地理学・地誌学教室を事例として、大学院教育におけるフィールドワークの安全安心と支援について考える。



発表の流れ

- 1) 大学院教育におけるフィールドワーク
野外実験の略史・大学院カリキュラム
- 2) 野外実験の実施方法
実施場所・実施方法・実験の様子・成果
- 3) 野外実験における安全・安心と支援
事前準備・現地にて・反省点
- 4) 今後への課題



野外実験の歴史

- ◆ 野外調査の伝統：高師・文理大・東教大
地理学研究の原点としての地域調査
地域生態論的研究



野外での調査体験を出発点として地域を
思考する学問的基盤（大塚地理学の伝統）



大学院カリキュラム

◆ 野外実験

人文地理学・地誌学ほか各分野：M・D

地球環境科学（1単位）：M

◆ 各分野の専門科目

講義・演習・野外実験のセット：各3単位

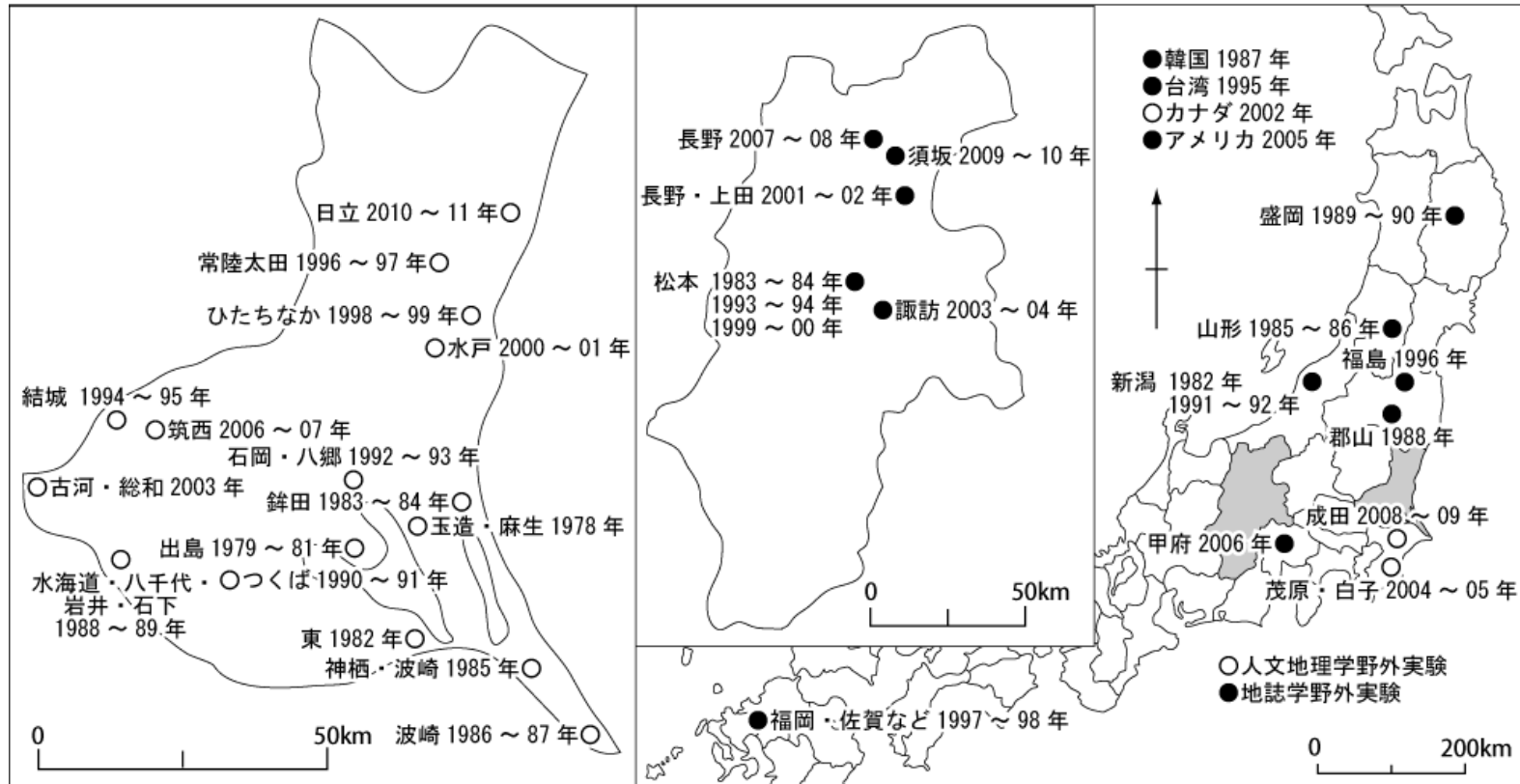
◆ 履修状況（人文系）

人文地理学分野＋地誌学分野

＋空間情報科学分野で単位充足



実験場所



※地名は野外実験実施当時

人文地理学: 近隣地域(霞ヶ浦周辺～茨城県内～千葉県)
地誌学: 東北・信州・九州の主要都市および周辺地域



実験方法

◆2年連続同一のフィールド(各1週間)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2008年	長野市		2年目調査	調査まとめ, 図表作成・執筆				入稿, 原稿修正		報告書完成		
				事前調査	1年目調査		調査まとめ		2年目調査準備			
2009年	成田市		2年目調査	調査まとめ, 図表作成・執筆				入稿, 原稿修正		報告書完成		
	須坂市			事前調査	1年目調査		調査まとめ		2年目調査準備			

人文地理学野外実験 地誌学野外実験

この他, 空間情報科学野外実験は毎年11月に3日間の日程で行われる。



実験方法

須坂市(2010年)→
地誌学野外実験参加者



◆ 調査形態と参加者

グループ調査を主体(人文)／個人＋グループ調査(地誌)

D1・2およびM1は原則参加(20～30人)

D3・M2が参加する場合もあり

◆ 時期

1年目:秋(10月末) 2年目:春(5月末)

2年目の年度末に報告書作成(『地域研究年報』2011年現在33号)

◆ 目的

筑波スタイルの構築:地理学者(≡フィールドワーカー)の養成

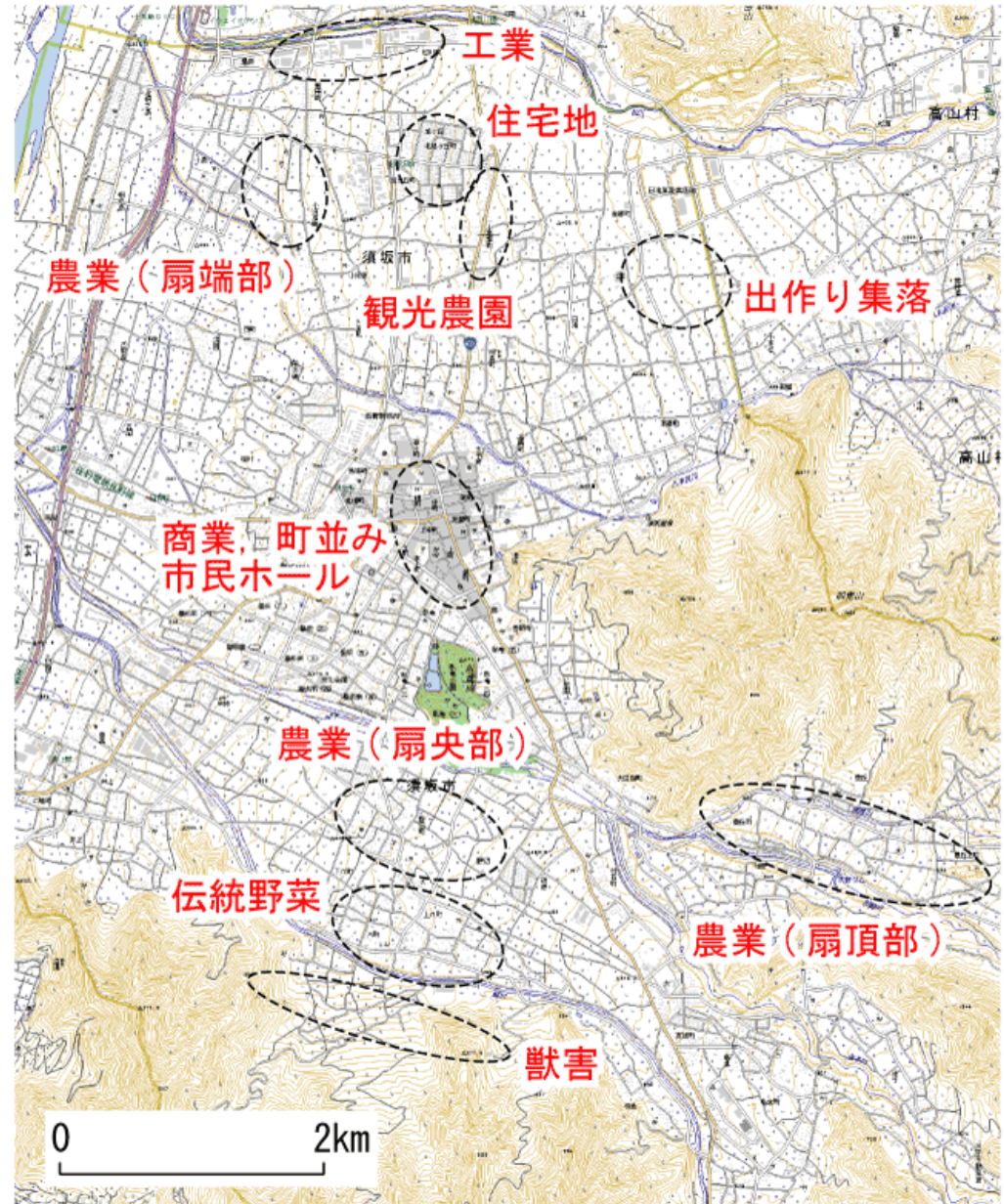
Keywords:土地利用, 景観観察, 生産基盤, 地域生態…

→野外調査を出発点として地域を思考する学問的基盤の構築



調査地域の選定

主に、地誌学野外実験では実施場所として盆地を選定し、扇端部や扇頂部など異なる環境における人間と自然とのかかわり、人間活動を調査





実験の様子① 調査風景1

◆ジェネラルサーベイ



↑ 筑西市 (2007年)
住宅地調査班の説明風景



↓ 成田市 (2009年)
観光調査班の説明風景

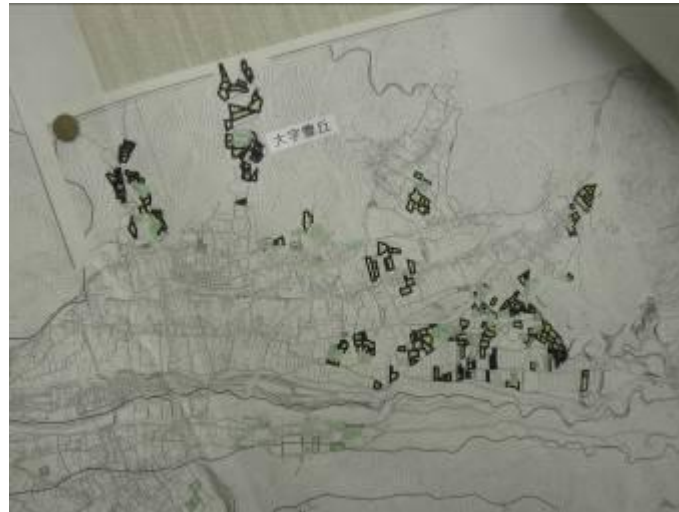


実験の様子② 調査風景2

◆ 土地利用調査



↑ 須坂市(2010年)
土地利用調査の風景



← 須坂市(2010年)
農業調査班の
土地利用調査
下図

成田市(2009年)→
農業調査班の
土地利用調査風景





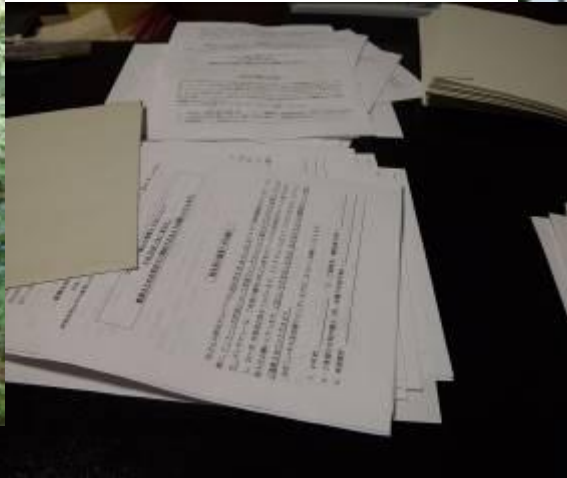
実験の様子③ 調査風景3

◆聞き取り調査

↓ 須坂市(2010年)
商業調査班調査票



↑ 日立市(2011年)
観光調査班



↑ 須坂市
(2010年)
農業調査班

須坂市→
(2010年)
住宅調査班



筑西市→
(2007年)
農業調査班





実験の様子④ 夜1

◆ゼミ



↑ 須坂市(2010年)
地誌学野外実験におけるゼミ風景



↑ 成田市(2009年)
人文地理学野外実験におけるゼミ風景



実験の様子⑤ 夜2

◆作業



↓ 須坂市(2010年)
住宅調査班



↑ 筑西市(2007年)
住宅調査班

↓ 成田市(2009年)
農業調査班





実験の様子⑥ 夜3

◆懇親会



↑ 成田市 (2009年)
人文地理学野外実験にて



← 筑西市
(2007年)
人文地理学
野外実験にて



須坂市 (2009年) →
地誌学野外実験にて



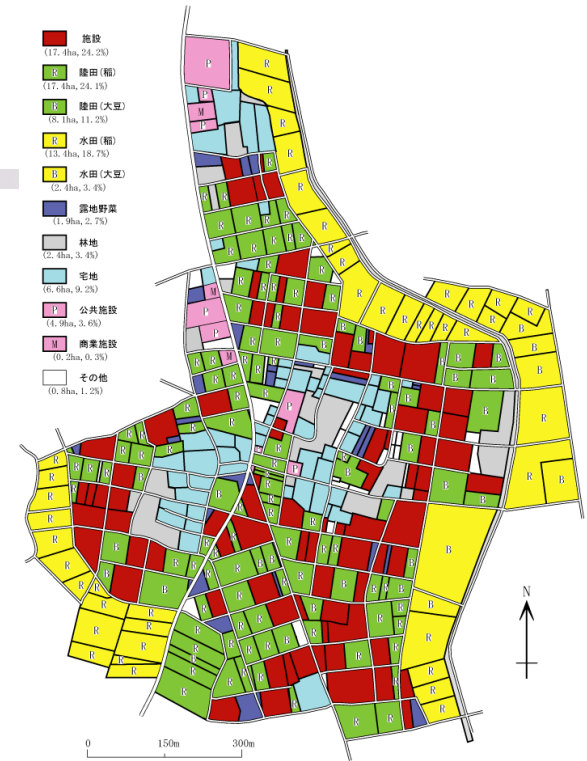
実験の成果①

◆土地利用図

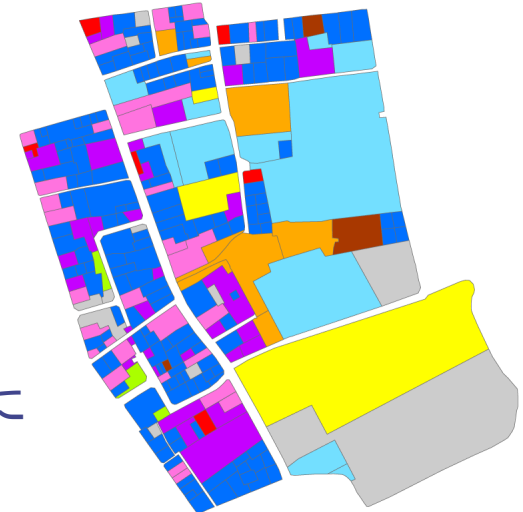
筑西市(2007年)
農村調査における土地利用図→

○土地利用図作成におけるデータベースの構築 (ArcGISを用いて)

1. 基盤地図情報を基図として、シェープファイルを作成
2. シェープファイルに、土地利用調査で得られた属性を分担して入力
3. 各人のデータを統合し、土地利用形態に応じて着色、あるいはパターンを作成
4. 統合されたデータは、Illustratorなどで加工、整形して各班の目的に応じて使用する
→基本となる地図を共同で作成、共有利用



須坂市(2010年)都市部調査における土地利用図の一部→





実験の成果②

◆地域研究年報



- 霞ヶ浦地域研究報告
1979～1982年(第1～4号)
- 地域調査報告
1983～2004年(第5～26号)
- 地域研究年報
2005年～(第27号～)

目次

目次	頁
霞ヶ浦地域研究報告	1
地域調査報告	1
地域研究年報	1
第30号(筑西市)	1
目次	1
1. 筑西市の地域研究の現状	1
2. 筑西市の地域研究の現状	1
3. 筑西市の地域研究の現状	1
4. 筑西市の地域研究の現状	1
5. 筑西市の地域研究の現状	1
6. 筑西市の地域研究の現状	1
7. 筑西市の地域研究の現状	1
8. 筑西市の地域研究の現状	1
9. 筑西市の地域研究の現状	1
10. 筑西市の地域研究の現状	1
11. 筑西市の地域研究の現状	1
12. 筑西市の地域研究の現状	1
13. 筑西市の地域研究の現状	1
14. 筑西市の地域研究の現状	1
15. 筑西市の地域研究の現状	1
16. 筑西市の地域研究の現状	1
17. 筑西市の地域研究の現状	1
18. 筑西市の地域研究の現状	1
19. 筑西市の地域研究の現状	1
20. 筑西市の地域研究の現状	1
21. 筑西市の地域研究の現状	1
22. 筑西市の地域研究の現状	1
23. 筑西市の地域研究の現状	1
24. 筑西市の地域研究の現状	1
25. 筑西市の地域研究の現状	1
26. 筑西市の地域研究の現状	1
27. 筑西市の地域研究の現状	1
28. 筑西市の地域研究の現状	1
29. 筑西市の地域研究の現状	1
30. 筑西市の地域研究の現状	1

地域研究年報→
 第30号(筑西市)
 目次



実験の成果③

◆学会発表の様子

筑西市(2006, 2007年)の
成果発表2008年日本地理学会
春季大会(独協大学)にて→



↓成田市(2008, 2009年)の
成果発表2009年人文地理学会
大会(名古屋大学)にて



◆学会誌掲載の例

- 林 琢也 2009. グローバル化に対応したリンゴ生産と品種の管理—日本ピンクレディー協会の取り組みを事例に—
茨城地理(10):19-27.
- 吉田国光・市川康夫・花木宏直・栗林 賢・武田周一郎・田林 明 2010. 大都市近郊における社会関係からみた稲作
農家の農地集積形態. 地学雑誌119(5):810-825.
- KUBO Tomoko, ONOZAWA Yasuko, HASHIMOTO Misao, HISHINUMA Yusuke and MATSUI Keisuke 2010.
Mixed Development in Sustainability of Suburban Neighborhoods: The Case of Narita New Town. Geographical
review of Japan series B.83.47-63.



実験の成果④

◆ 著書における成果

齋藤 功編 2006. 『中央日本における盆地の地域性—松本盆地の文化層序—』 古今書院.
高橋伸夫編 1990. 『日本の生活空間』 古今書院.



◆ 地域との連携



○須坂市(2009, 2010年)
須坂市, 市史編纂室との
連携調査(写真左)

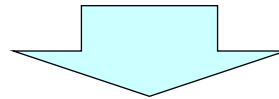
○茂原市(2005, 2006年)
一宮市において調査内容
を報告する講演会を実施
(写真右)



実験中の事故

◆ 幸い、深刻な事件・事故はなし

→ 自動車事故(物損), 交通違反, 体調不良…



学生の自覚
教員の指導
幸運



支援① 事前準備

- ◆事前指導：オリエンテーション3回
- ◆教員による現地訪問：2～3回
 - 市役所ほか関係団体・セクション
 - 調査地についての相談・協力依頼
 - 広報（広報誌・回覧板・地域メディア等）
- ◆テーマ設定：危険は回避
- ◆宿泊施設
- ◆保険：学生傷害保険



支援② 現地指導

- ◆ 調査班の設計：テーマと経験のバランス
D(リーダー) + M + 教員
教員が同行(責任者)
- ◆ 文章／口頭での注意と実践
疲労軽減(作業しすぎない)
体調管理(飲みすぎない, 睡眠確保)
交通事故注意
資料管理(紛失・汚損)
被調査者のプライバシー保護...



支援③ 他分野の事例

◆「フィールドワーク安全手帳」の作成

調査前の準備

調査中

調査後の報告連絡

緊急時の対応

◆安全3か条

現地主義・慎重の上に慎重

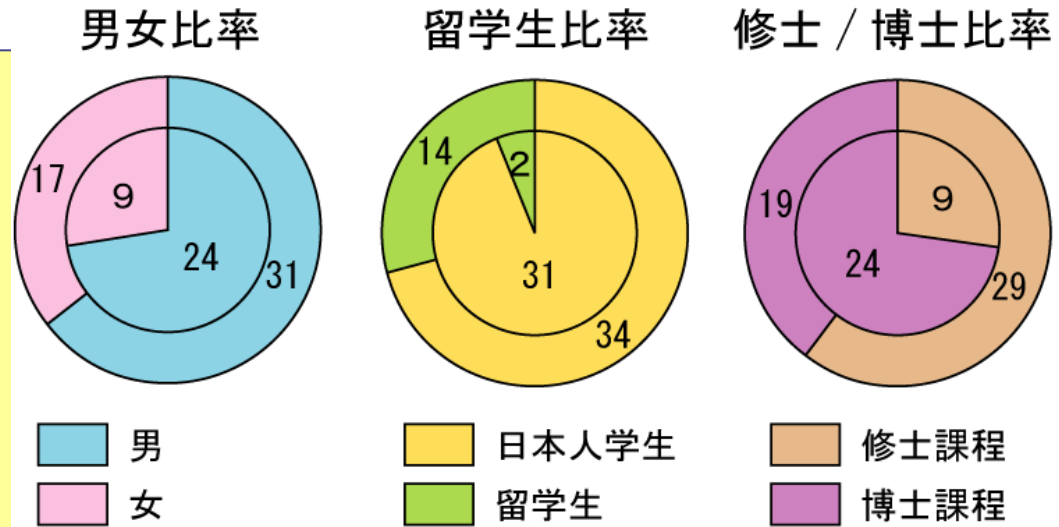
諦めも大切



大学院教育をめぐる環境の変化

1) 大学院生数の増加

大学院生の構成→
(2001年, 2011年)



2) 目的意識の変化

研究者養成から実務家養成へ

「教育の場」から「研究業績」の志向



おわりに

◆ 野外実験の意義：十分にある

教育的機能

研究者育成機能

学統の継承

◆ 大学院をめぐる環境変化への対応

運営方法の柔軟さ

安全安心マニュアル作成の必要性